**これはアストラゼネカ英国本社が2009年10月29日に発信したプレスリリースの日本語訳です。**
**日本で未発売の製品については英語標記のままとします。**

**ロンドン発　2009年10月29日**

# AstraZeneca PLC　2009年第3四半期・9ヶ月累計業績

**第3四半期の売上は恒常為替レート（CER）ベースで10%増の82億ドル**

- *Toprol-XL*の米国の売上は、後発品の市場撤退がプラスに影響し、CERベースで全世界の売上増の3%を占めました。
- 新型インフルエンザA（H1N1）ワクチンの米国の売上は第3四半期に1億5,200万ドルに達し、CERベースで全世界の売上増の2%を占めました。
- 新興市場の売上はCERベースで15%増加し、年間売上二桁成長に向けて順調に推移しています。

**第3四半期の中核営業利益は、売上増と業務の効率化によりCERベースで29%増の36億900万ドル**
**第3四半期の中核1株当り利益（EPS）はCERベースで27%増の1.68ドル**
**第3四半期の報告ベースのEPSは22%増の1.46ドル**

- フィラデルフィアの連邦検事事務所との間でセロクエルの営業・マーケティング慣行に関する調査の解決に向けて基本的に合意しました。この費用は、9ヶ月累計で5億3,800万ドル計上した引当金（第3四半期には1億800万ドル計上）のうち5億2,000万ドルに相当します。

**堅調なキャッシュフローにより2008年12月31日以降正味負債が39億8,100万ドル減少**

**パイプラインの進展：**

- 新規糖尿病治療薬ONGLYZA™が米国およびEUで承認されました
- Brilintaの承認申請をEUで行いました：米国では第4四半期に申請を予定しています。
- Forest LaboratoriesおよびNektar Therapeuticsと後期開発品目に関する共同開発を発表しました。
- 化学療法との併用において全生存期間を延長しないという最新の分析結果に基づき*Zactima*の承認申請を取り下げました。

**中核EPSの通年目標を6.20ドルから6.40ドルのレンジに上方修正**

## ファイナンシャルサマリー

| グループ | 第3四半期 2009 100万ドル | 第3四半期 2008 100万ドル | 前年同期比 % | CER % | 9ヶ月累計 2009 100万ドル | 9ヶ月累計 2008 100万ドル | 前年同期比 % | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 8,200 | 7,775 | +5 | +10 | 23,859 | 23,408 | +2 | 8 |
| 報告ベース | | | | | | | | |
| 営業利益 | 3,204 | 2,522 | +27 | +25 | 9,218 | 7,252 | +27 | +27 |
| 税引き前利益 | 3,032 | 2,443 | +24 | +23 | 8,643 | 6,865 | +26 | +26 |
| 1株当り利益 | $1.46 | $1.20 | +23 | +22 | $4.12 | $3.34 | +24 | +23 |
| 中核* | | | | | | | | |
| 営業利益 | 3,609 | 2,771 | +30 | +29 | 10,577 | 8,273 | +28 | +29 |
| 税引き前利益 | 3,437 | 2,692 | +28 | +27 | 10,002 | 7,886 | +27 | +27 |
| 1株当り利益 | $1.68 | $1.32 | +28 | +27 | $4.90 | $3.85 | +27 | +28 |

*当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると考えられるIFRS(国際財務報告基準)とは異なる補足的な指標として中核財務指標も報告しています。2009年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標については10ページを、中核と報告ベースの財務指標の調整については10ページと11ページをご覧下さい。

**最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました**: **「当社の堅調な業績は、良好な業務遂行に加え、*Toprol-XL*とH1N1ワクチンの売上増により増強されました。これらの要因を反映し、9ヶ月累計の売上は堅調、中核EPSの通年目標は上方修正されました。7月以降、Zactimaの残念なニュースはあったものの、ONGLYZA™の承認、Brilintaの欧州での承認申請および新たな外部との提携などパイプラインは進捗しました。」**

**ビジネスハイライト** ***別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）***

**第3四半期**

**第3四半期の売上はCERベースで10%増、実質ベースでは為替変動の影響を受けて5%増でした。後発品2製品が市場から撤退したためToprol-XLフランチャイズの米国の売上が大幅に伸びたことと、米国政府からの新型インフルエンザA（H1N1）ワクチンの発注による売上が全体を押し上げました。この影響を調整すると、全世界の売上はCERベースで5%増でした。米国市場の売上は、14%（Toprol-XLとH1N1ワクチンの売上を除くと3%）増加しました。米国以外の市場の売上も7%増でした。既成市場の売上は4%増、新興市場の売上の伸び率は15%でした。新興市場の売上は通年で二桁成長が予想されます。**

**第3四半期の中核営業利益は29%増の36億900万ドルでした。これは主に売上増によるものでした。売上総利益の増加と研究開発費の減少によるプラス効果は販売費および一般管理費の増加とその他の収入の微減により一部相殺されています。報告ベースの営業利益は25%増の32億400万ドルでした。この伸び率は中核営業利益の伸びよりわずかに低くなっていますが、これは2009年第3四半期に行われた医薬品のマーケティングおよび価格設定慣行に関わる様々な連邦政府や州政府による調査および民事訴訟に関連して総額1億800万ドルの引当金を計上したことと、MedImmune社とともに取得した専有的な逆遺伝学的ワクチン技術ライセンスの潜在的価値の修正見積りに関連する評価減によるものです。**

**第3四半期の中核一株当たり利益（EPS）は、2008年第3四半期の1.32ドルから、CERベースで27%増の1.68ドルとなり、当四半期の中核営業利益の伸びにほぼ沿ったものでした。第3四半期の報告ベースの1株当たり利益（EPS）は、法務関連引当金や無形資産評価減の計上後、22%増の1.46ドルでした。**

**9ヶ月累計**

**9ヶ月累計の売上はCERベースで8%増、実質ベースでは為替変動の影響を受けて2%増でした。米国のToprol-XLとH1N1ワクチンの売上を除くと全世界の売上増はCERベースで5%でした。米国市場の売上は11%（*Toprol-XL*とH1N1ワクチンの売上を除くと4%）増加しました。米国以外の市場の売上は6%増でした。既成市場の売上は4%増、新興市場の売上は13%増でした。**

**中核営業利益は、2008年9ヶ月累計比での売上増、更なる業務効率化、その他の収入増により、29%増の105億7,700万ドルでした。報告ベース営業利益は92億1,800万ドルで、中核営業利益の伸びにほぼ匹敵する27%増でした。これは2009年第2および第3四半期の法務関連引当金5億3,800万ドルのマイナス影響が2008年第1四半期に計上されたEthyolの評価減によってある程度相殺されたためです。**

**9ヶ月累計の中核1株当たり利益は28%増の4.90ドルとなり、中核営業利益の伸びに沿ったものになりました。報告ベースのEPSは23%増の4.12ドルでしたが、これは前述の法務関連引当金やEthyolの評価減の影響によるものです。中核EPSから報告ベースのEPSへのその他の調整（事業再構築費用およびMedImmune社とメルク社の償却）は両期間ともほぼ同様でした。**

**研究開発の最新情報**

**当社研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2009年上半期の業績発表に関連して7月30日に提供されており、パイプライン表は引き続き当社ウェブサイトwww.astrazeneca.comの投資家向け情報でご覧になれます。**

**2009年上半期の更新以降パイプラインの強化は引き続き進捗し、重要な承認を取得するとともにライセンス契約が新たに2件締結されました。**

**ONGLYZA™**

**2009年7月31日、当社とブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、米国食品医薬品局（FDA）が成人の2型糖尿病治療薬としてONGLYZA™（saxagliptin）を承認したと発表しました。**

**2009年10月5日、両社は、欧州委員会がメトホルミン、スルホニルウレアまたはチアゾリジンジオンとの併用で血糖コントロールを改善するために2型糖尿病成人患者の適応症に関して欧州連合の27の加盟国でONGLYZA™の販売を承認したことを発表しました。**

**Ceftaroline**

2009年8月12日、当社とForest Laboratoriesは米国、カナダおよび日本以外のすべての主要市場でceftarolineの共同開発および商品化を行う最終的な提携契約を発表しました。Ceftarolineは皮膚軟組織感染症（cSSSI）および市中細菌性肺炎（CABP）の治療薬として試験中のForestの後期次世代セファロスポリンです。Ceftarolineは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）や多剤耐性肺炎連鎖球菌（MDRSP）を含むcSSSIおよびCABPに共通の広範囲の病原菌に対して殺菌作用があります。

Forestは当社と共同で2009年末までに米国で新薬承認申請（NDA）を、2010年末までにヨーロッパで販売承認申請（MAA)を提出する予定です。

**NKTR-118 及びNKTR-119**

2009年9月24日、当社とNektar Therapeuticsは次の2つの新薬開発プログラムに関する全世界対象の独占的ライセンス契約を発表しました。オピオイド誘発性便秘の治療薬として評価中の後期治験薬であるNKTR-118開発プログラムと便秘の副作用なしに痛みを治療する製品を開発するための早期プログラムであるNKTR-119開発プログラムです。いづれのプログラムも、専有的な小分子先端高分子結合技術プラットフォームを用いてNektarが策定したものです。

この契約の条件に基づき、当社はNKTR-118の後期臨床活動の開始を含む両プログラムの継続的開発に責任を負います。当社は近いうちに第III相プログラムの立案完了を予定しており、2013年に規制当局への申請を予定しています。

その他の重要なパイプラインの開発には以下のものがあります：

***Zactima***

2009年10月28日、当社はZactima（vandetanib）100 mgの進行性非小細胞肺がん（NSCLC）の患者を対象とした化学療法との併用使用に関する承認申請を米国FDAおよび欧州医薬品審査庁（EMEA)から取り下げたことを発表しました。この申請は2009年6月に規制当局に提出されていたものです。

申請の取り下げは、vandetanibを化学療法と併用しても無増悪生存期間（PFS）を主要評価項目とする最新資料から承認を得るために十分な臨床上の有用性を示すことができないという社内判断と、これまで得られた薬事当局からのフィードバックに基き決断しています。

第III相試験の結果は、vandetanibは化学療法との併用使用で臨床的に有用であることを示しています。当社は継続中の第III相プログラムを完了する予定です。これによりさまざまな臨床背景におけるvandetanibの有効性が一層明らかになると考えています。ZEPHYR（EGFR阻害剤の投与を受けたことのある進行性NSCLC患者への300mg単剤療法の試験）およびZETA（進行性甲状腺がん対象の300mg単剤治療）試験の結果は2009年末または2010年の初めを予想しています。

***Brilinta***

2009年10月26日、BrilintaのMAAがEMEAに提出され、当社は当該申請の認可を待っています。米国NDAは第4四半期に提出予定です。

2009年8月30日、当社は第III相比較試験PLATO（A Study for Platelet Inhibition and Patient Outcomes）の結果を発表しました。この試験においてticagrelorはクロピドグレル（Plavix®/Iscover®）と比較して大出血リスクを増大させることなく、主要評価項目である心血管イベント発症リスク（心血管死、心筋梗塞、脳卒中）を有意に抑制しました。脳卒中では差異は認められなかったものの、心臓血管死および心筋梗塞において統計的に有意な抑制が認められました。ticagrelorは、急性冠症候群患者を対象としたクロピドグレルとの比較において心臓血管死の抑制を示した初めての抗血小板剤です。

PLATO試験では33の有効性と33の安全性を含む66のサブグループがあらかじめ特定されました。66のサブグループのうち62の結果は試験母集団全体の結果と一致していました。 評価対象のサブグループの数の多さを考えれば、一致しない4つのサブグループの結果は偶発的に起こった可能性があります。北米で組入れられた患者と、北米以外の地域で組入れられた患者の差が、地理的な違いによる患者集団の違い

によるのか、診療内容の違いが本試験の結果に影響をおよぼしたかは現時点では不明です。明確な説明根拠は見出せていませんが、アスピリン投与と有効性の結果の間に関連性がある可能性を追加分析は示唆しています。ticagrelorと併用してアスピリン投与量を増加すると有効性が減じることが観察されました。当社およびPLATO試験の治験責任医師はこれらの仮説およびその他の仮説並びにPLATO試験データセットのその他の追加分析を引き続き調査しており、近々公表する予定です。

さらに11月の米国心臓協会（AHA）科学会議ではBrilintaに関する8つのプレゼンテーションが行われます。これらのプレゼンテーションには下記が含まれます。

- PLATOにおけるSTEMI ACSコホートに関するLate-Breaker臨床試験プレゼンテーション
- クロピドグレルに対するticagrelorの抗血小板効果の発現および消失を調査するONSET/OFFSET第II相試験の初回プレゼンテーション
- クロピドグレルに対するticagrelor投与を受けた患者の抗血小板反応を比較したRESPOND第II相試験の初回プレゼンテーション

これらの試験から得られる追加のBrilintaデータは2010年中に公表予定です。

***セロクエル/セロクエルXR***

2009年9月29日、当社は、クエチアピン治療が奏功した躁病エピソード、混合エピソードまたは鬱病エピソード患者における双極性障害の再発防止の適応で、セロクエルXRおよびセロクエルが欧州相互承認手続きに基づいて承認されたことを発表しました。

この新たな適応症追加により、双極性障害の全段階（急性鬱病エピソード、急性躁病エピソード、双極性傷害における癇癪の再発防止のための維持療法）の治療薬として欧州連合で承認された薬剤はセロクエルとセロクエルXRのみとなりました。

**新型インフルエンザA（H1N1）ワクチン**

2009年9月15日、当社は新型インフルエンザA（H1N1）ウィルスに対する弱毒性生ワクチン（LAIV）の承認を米国FDAから取得しました。このワクチンは世界的な流行が見られる（H1N1）2009ウィルスが引き起こすインフルエンザに対する2〜49歳の能動免疫化を目的としたものです。

現在まで米国政府はH1N1株用LAIV約4,000万回分を発注しており、累計総契約金額は約4億5,300万ドルです。米国政府の総発注数を満たすのに十分な量のバルクワクチンは製造されており、公衆衛生当局の指示に従った流通が既に始まっています。

***クレストール***

2009年10月16日、当社は、食事療法ではコレステロール値を下げることができない場合のヘテロ接合家族性高コレステロール血症（HeFH）の10〜17歳の小児患者に対するクレストールの使用を米国FDAが承認したことを発表しました。遺伝的疾患であるHeFHの特徴は高LDLコレステロール値（悪玉コレステロール）と早期心血管疾患のリスク増大です。

このFDAの決定は当社が提出した追加承認申請に基づいたものであり、これにはPLUTO試験（Paediatric Lipid-redUction Trial of rOsuvastatin）のデータが含まれています。PLUTOはHeFHの10〜17歳の子供に対するクレストールの有効性および安全性を評価するために行なわれました。

PLUTO試験の結果を提出することにより、当社は小児に対するクレストールの影響を評価する研究を行うというFDAに対する公約を果たしました。その結果2009年7月、承認されたコレステロールとアテローム硬化適応症用にクレストールを2016年7月まで販売する追加6ヶ月間の独占権が付与されました。

JUPITER試験結果を反映させるための、クレストール添付文書改訂の申請については米国および欧州において規制当局による審査を受けています。当社は2009年12月15日に予定されている米国FDA内分泌代謝薬諮問委員会の会議で米国の追加新薬承認申請が協議される旨の通知を受けています。

***シムビコート***

2009年10月16日、当社は、吸入ステロイド薬と長時間作用型β2作動薬の併用療法が必要な場合の16歳

以上の患者における気管支喘息の維持療法に関してシムビコート タービュヘイラー が日本の厚生労働省（MHLW)に承認されたことを発表しました。

当社およびアステラス製薬株式会社は2009年8月、シムビコート タービュヘイラー のコ・プロモーション契約に署名しました。当社が製品を製造・開発してアステラスが流通・販売を行い、プロモーション活動は両社が共同で行います。

***Vimovo***

2009年10月16日、当社とPOZEN社は、当社がVimovo（ナプロキセン/エソメプラゾールマグネシウム－以前の名称はPN400）錠の販売承認申請（MAA）をEUで分散化審査方式（DCP）により提出したことを発表しました。同製品はNSAID（非ステロイド性消炎鎮痛剤）に起因する潰瘍に進展する危険性のある患者の変形性関節炎、関節リウマチおよび強直性脊椎炎の兆候と症状の治験薬です。

2009年6月にPOZEN社はVimovoの新薬承認申請（NDA）を米国FDAに提出しました。NDAは2009年8月31日に受諾され、現在審査中です。

<u>生産性の向上</u>

既に発表している事業再構築プログラムが順調に進行しています。第3四半期に事業再構築費用1億1,200万ドルを計上し、9ヶ月累計の計上総額は3億7,400万ドルでした。

すべてのプログラムは目標達成に向けて順調に進行しており、2010年までに年間21億ドルのコスト削減が見込まれ、2013年までにはさらに4億ドルの削減が予想されます。

<u>今後の見通し</u>

世界的に厳しい経済状況の中で、当社は予想を上回る業績を達成することが出来ました。良好な業務遂行と予想外の売上増（Toprol-XLや米国市場へのカソデックス後発品の参入遅延を含む）により当社は上半期に高い業績を達成しました。予想通りこの傾向は第3四半期も継続しました。これには、H1N1インフルエンザワクチンの初期の売上による改善も含まれます。年末までの見通しは次の複数の要因により好転しています：①用量幅が狭いToprol-XLの追加後発品の承認、②当社の見積りの最大量のH1N1インフルエンザワクチンの追加発注（売上の大部分が2009年に計上される製造スケジュールに基づく）、および③売上原価内の引当金の繰戻し（これにより売上総利益がさらに増大します）。

当社は現在、通年ベースでは売上がCERベースで一桁台の半ばから後半の範囲で伸びると予想しています。中核EPSは現在のところ、6.20ドルから6.40ドルの範囲内となることが予想されています。

この目標は、2009年末までの平均為替レートが、当社の収益ガイダンスが作成された2009年1月の平均レートから大きく逸脱する可能性を考慮していません。米ドルに対する当社の主要取引通貨の変動が売上高や収益に及ぼす影響度の予想は2008年度通年決算発表とともに示されており、当社ウェブサイトで閲覧可能です。

## 売上高

***別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。***

**消化器**

| | 第3四半期 | | CER % | 9ヶ月累計 | | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2009<br>100万ドル | 2008<br>100万ドル | | 2009<br>100万ドル | 2008<br>100万ドル | |
| Nexium | 1,243 | 1,315 | -1 | 3,681 | 3,876 | +1 |
| Losec/Prilosec（オメプラール） | 240 | 249 | -3 | 696 | 791 | -9 |
| 合計 | 1,517 | 1,589 | -1 | 4,458 | 4,733 | -1 |

- Nexiumの米国の第3四半期の売上高は、前年同期比12%減の6億8,900万ドルでした。小売部門の調剤量は約1%減少しました。Nexiumの平均実勢小売価格は第3四半期に約13%、9ヶ月累計約9%下落し、通年ベースでの一桁台後半の価格下落の予想に沿ったものでした。

- 米国のNexiumの9ヶ月累計の売上高は7%減の21億1,800万ドルでした。

- その他の市場におけるNexiumの第3四半期の売上高は13%増の5億5,400万ドルでした。西ヨーロッパでの売上高は11%増加しました。新興市場の売上高は30%増で、これには中国の55%の売上増が含まれています。

- その他の市場におけるNexiumの9ヶ月累計の売上高は11%増の15億6,300万ドルでした。

- 米国のProlosec（オメプラール）の売上高は第3四半期には54%減、9ヶ月累計では64%減でしたが、これは2008年下半期に40mgの競合後発品の参入によるものです。

- 米国以外のLosec（オメプラール）の売上高は第3四半期に6%増加し、日本（15%増）と中国（33%増）では堅調な伸びとなりました。米国以外のLosec(オメプラール)の9ヶ月累計の売上高は2%増でした。

**循環器**

| | 第3四半期 | | CER % | 9ヶ月累計 | | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2009<br>100万ドル | 2008<br>100万ドル | | 2009<br>100万ドル | 2008<br>100万ドル | |
| クレストール | 1,147 | 922 | +30 | 3,245 | 2,610 | +32 |
| セロケン/Toprol-XL | 414 | 204 | +110 | 1,119 | 600 | +95 |
| Atacand | 370 | 386 | +5 | 1,049 | 1,120 | +6 |
| Plendil | 60 | 65 | -5 | 181 | 201 | -5 |
| ゼストリル | 47 | 60 | -15 | 141 | 184 | -15 |
| ONGLYZA™ * | 9 | - | n/m | 9 | - | n/m |
| 合計 | 2,191 | 1,782 | +29 | 6,149 | 5,160 | +28 |

** ONGLYZA™は「提携収入」として計上されています。これは工場渡しの売上ではなく、本製品に関するブリストル・マイヤーズ　スクイブ社との提携から生じる総利益の当社のシェアを表しています。*

- 米国でのクレストールの第3四半期の売上高は、25%増の5億2,300万ドルでした。クレストールの処方量合計は、スタチン市場全体の6%増に対して、25%増えました。総処方量中のクレストールのシェアは引き続き増えており、2009年9月には11%に達しました。

- クレストールの米国での9ヶ月累計の売上高は30%増の15億4,800万ドルでした。

- 米国以外のクレストールの第3四半期の売上高は34%増の6億2,400万ドルでした。クレストールの販売量は引き続き増加しており、既存および新興市場でのスタチンの市場成長率を大きく上回っています。西ヨーロッパ（26%増）、カナダ（28%増）、日本（43%増）およびオーストラリア（64%増）で伸びが顕著でした。新興市場の売上高は41%増でした。

- 米国以外のクレストールの9ヶ月累計の売上高は34%増の16億9,700万ドルでした。

- 自社後発品を含むToprol-XL関連製品の米国での第3四半期の売上高は307%増の2億9,300万ドルでした。また、同フランチャイズの総処方量は118%増えました。売上増が処方増を上回ったのは、供給体制回復による自社後発品の価格変更と売上増によります。第3四半期にWatson社によりメトプロロールコハク酸塩後発品が市場に投入されましたが、その当初の承認されていたは25mgと50mgの用量のみでした。2009年9月にWatson製品はメトプロロールコハク酸塩の総処方量の約6%を占めました。最初の後発品メーカー2社の後発品はまだ販売が再開されていません。これらの製品が米国市場に復帰する時期、可能性、あるいは新規後発品が承認される時期は引き続き不明です。

- 米国でのToprol-XLフランチャイズ売上高は、9ヶ月間累計で271%増の7億6,700万ドルでした。

- 米国以外のセロケンの売上高は第3四半期、9ヶ月累計ともに2%増加し、新興市場では二桁の伸びを示しました。

- Atacandの米国の売上高は第3四半期には4%増、9ヶ月累計では1%減でした。米国以外のAtacandの売上高は、第3四半期に5%増、年初来では7%増でした。

- ブリストル・マイヤーズ スクイブ社とのONGLYZA™の提携から生じる提携売上は第3四半期に900万ドルとなりました。これには2009年7月31日の米国FDA承認後における、発売在庫の売上の当社シェアが反映されています。

**呼吸器および炎症**

| | 第3四半期 | | CER % | 9ヶ月累計 | | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | |
| シムビコート | 562 | 501 | +22 | 1,628 | 1,490 | +23 |
| パルミコート | 320 | 304 | +8 | 923 | 1,098 | -12 |
| Rhinocort | 63 | 72 | -7 | 199 | 244 | -13 |
| Oxis | 16 | 18 | - | 44 | 56 | -5 |
| アコレート | 17 | 18 | - | 49 | 55 | -7 |
| 合計 | 1,009 | 951 | +13 | 2,941 | 3,069 | +5 |

- 米国のシムビコートの第3四半期売上高は1億2,500万ドルで前年同期比95%増でした。この伸びは、COPDが新適応症として追加されたことと喘息市場への持続的な浸透によるものです。定量配合剤の新規処方量に占めるシムビコートのシェアは2009年9月に16.6%に伸び、本四半期中に2.7ポイント増となりました。併用療法を新たに開始する患者の市場シェアは現在26.3%です。

- 米国のシムビコートの9ヶ月累計の売上高は3億3,500万ドル、増加率は103%でした。

- 米国以外のシムビコートの第3四半期売上高は4億3,700万ドルと、前年同期を11%上回りました。西ヨーロッパでの売上高は8%増、新興市場の売上高はこの四半期に22%増となりました。

- 米国以外の市場でのシムビコートの9ヶ月累計売上高は13%増加して12億9,300万ドルでした。

- 米国のパルミコートの第3四半期売上高は6%増の2億700万ドルでした。2008年末にTeva社が出荷したブデソニド吸入用懸濁液（BIS）の後発品は、この四半期中も市場シェアの減少が続いていますが、第4四半期も供給が続くと思われます。2009年12月15日、当社のライセンスに基づく後発品の販売をTeva社が開始します。BIS処方量に対するパルミコート吸入液のシェアは第3四半期に73%まで伸長し、第2四半期の62%を上回りました。

- **米国のパルミコートの9ヶ月累計の売上高は20%減の5億7,400万ドルでした。**

- **米国以外のパルミコートの9ヶ月累計の売上高は3%増の3億4,900万ドルでした。**

**オンコロジー**

| | 第3四半期 | | CER % | 9ヶ月累計 | | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | |
| **アリミデックス** | 476 | 486 | +2 | 1,422 | 1,406 | +7 |
| **カソデックス** | 174 | 300 | -43 | 655 | 974 | -32 |
| **ゾラデックス** | 282 | 295 | +1 | 786 | 860 | - |
| **イレッサ** | 75 | 67 | +7 | 218 | 192 | +9 |
| Faslodex | 67 | 67 | +7 | 190 | 188 | +10 |
| **ノルバデックス** | 22 | 20 | +5 | 64 | 62 | +2 |
| Ethyol | 2 | 3 | -33 | 11 | 23 | -52 |
| **合計** | 1,099 | 1,256 | -10 | 3,349 | 3,759 | -6 |

- **米国のアリミデックスの売上高は第3四半期に11%増えて2億1,500万ドルとなりました。アリミデックスの総処方量は、乳がんのホルモン治療市場の1.4%の減少を若干上回る2.5%減でした。**

- **米国のアリミデックスの9ヶ月累計の売上高は14%増えて6億5,800万ドルとなりました。**

- **米国以外のアリミデックスの売上高は第3四半期は5%減、9ヶ月累計では3%増となりました。**

- **米国のカソデックスの第3四半期の売上高は、7月のFDAによる8種のビカルタミド後発製品の承認後、80%減の1,400万ドルとなりました。米国でのカソデックスの9ヶ月累計の売上高は40%減の1億3,000万ドルでした。**

- **米国以外のカソデックスの第3四半期売上高は31%減の1億6,000万ドルでした。これは西ヨーロッパでの後発薬との競合によるもので、西ヨーロッパでの売上高は57%の下落となりました。9ヶ月累計では、米国以外での売上高は30%減の5億2,500万ドルでした。**

- **イレッサの9ヶ月累計の売上高は9%増の2億1,800万ドルでした。これには7月のEU規制承認後の西ヨーロッパの売上高400万ドルが含まれています。9ヶ月累計では日本と中国で売上高が二桁増となりました。**

- Faslodex**の9ヶ月累計売上高は米国では4%、米国以外では15%増加しました。**

**ニューロサイエンス**

| | 第3四半期 | | CER % | 9ヶ月累計 | | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | |
| **セロクエル** | 1,231 | 1,130 | +12 | 3,605 | 3,292 | +14 |
| **ゾーミッグ** | 111 | 115 | +1 | 319 | 336 | +1 |
| **合計** | 1,578 | 1,476 | +11 | 4,601 | 4,342 | +11 |

- **米国のセロクエルの売上高は第3四半期に14%増の8億5,100万ドルでした。セロクエル・フランチャイズの総処方量は第3四半期に2.4%増加しましたが、この増加はすべてセロクエルXR処方によるものです。セロクエル・フランチャイズの市場シェアは、2009年9月に市場トップの31.3%（同四半期0.12%増）となりましたが、その中の3.0%はセロクエルXRが占めており、0.62%の増加でした。セロクエルXRは2009年9月にフランチャイズの総処方量の9.5%を占めました。**

- **米国のセロクエルの9ヶ月累計の売上高は25億4,400万ドルで、前年同期を16%上回っています。**

- **米国以外のセロクエルの第3四半期売上高は3億8,000万ドルで、後発品との競合によりカナダで73%の売上減となったものの、9%増加しました。西ヨーロッパでの売上高は17%増、新興市場の売上高は15%増でした。**

- **9ヶ月累計では、米国以外でのセロクエルの売上高は9%増の10億6,100万ドルでした。**

**感染症・その他**

| | 第3四半期 | | CER % | 9ヶ月累計 | | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | |
| *Synagis* | 82 | 124 | -34 | 681 | 724 | -6 |
| *Merrem* | 221 | 241 | - | 636 | 680 | +6 |
| *FluMist* | 92 | 71 | +30 | 94 | 71 | +32 |
| H1N1 Pandemic vaccine | 152 | - | n/m | 152 | - | n/m |
| **合計** | 582 | 494 | +22 | 1,676 | 1,646 | +7 |

- **米国の**Synagis**の9ヶ月累計の売上高は4%減の5億1,900万ドルでしたが、その大半は第1四半期の**RS**ウィルス感染症（乳児急性気道感染症）の季節に計上されたものです。米国以外の**Synagis**の売上高は10%減の1億6,200万ドルでした。これは当社の**Synagis**の国際販売代理店であるアボット社への出荷時期に関連しています。**

- FluMist**の第3四半期の売上高は**9,200**万ドルで、前年同期比で**30%**増加しました。**

- **米国政府は新型インフルエンザ**A（H1N1）**に対する**LAIV**約**4,000**万人分を発注しており、累計契約総額は約**4**億**5,300**万ドルとなっています。**1**億**5,200**万ドルの売上は第**3**四半期に計上され、契約金額の残額の大部分は**2009**年第**4**四半期に計上予定です。このプロジェクトは全部または一部が、**HHS（保健社会福祉省）/ASPR(Assistant Secretary for Preparedness and Response)/BARDA(The Biomedical Advanced Research and Development Authority)**からのフェデラル・ファンドによって費用負担されており、契約番号は**HHS01002009000021**です。**

**地域別売上**

| | 第3四半期 | | CER % | 9ヶ月累計 | | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | | 2009 100万ドル | 2008 100万ドル | |
| **北米** | 3,959 | 3,519 | +13 | 11,693 | 10,705 | +10 |
| **米国** | 3,659 | 3,199 | +14 | 10,831 | 9,726 | +11 |
| ROW**の既成市場*** | 3,094 | 3,140 | +4 | 8,979 | 9,453 | +4 |
| ROW**の新興市場** | 1,147 | 1,116 | +15 | 3,187 | 3,250 | +13 |

* *ROW**の既成市場には西ヨーロッパ諸国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スウェーデンなど）、日本、オーストラリアおよびニュージーランドが含まれます。***

- **米国の第3四半期の売上高は14%増でした。**Toprol-XL**や**H1N1**インフルエンザワクチンの販売による売上増に加えて、クレストール、セロクエルおよびシムビコートの伸長が**Nexium**、カソデックスおよび**Prilosec**の売上減を上回り、同四半期の売上高の伸びに寄与しました。**Toprol-XL**や**H1N1**ワクチンの売上を調整すると、米国の売上高は同四半期に3%増でした。**

- **米国以外の既成市場の売上高は第3四半期に4%増加しました。西ヨーロッパの売上高は3%増でした。これは、クレストール、セロクエル、**Nexium**およびシムビコートの売上増が、カソデックスの後発品による浸食の売上減を相殺する以上の効果があったためです。日本の売上高は9%増加しましたが、これは主にクレストールとセロクエルの売上増によるものです。オーストラリアの売上増8%はすべてクレストールによるものでした。**

- **新興市場の売上高は第3四半期に15%増加しました。中国の売上高は同四半期に26%増加しました。当社は新興市場における通年ベースで二桁の売上増を引き続き予想しています。**

## 営業およびファイナンシャルレビュー

*別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）ベースおよび中核ベースで示されています。当社の報告ベースの財務情報に加えて提示するこうした指標はIFRS（国際財務報告基準）とは異なる指標であり、当社グループの進行中のビジネスの基礎的な財務実績やそれにプラスとなるビジネス上の重要な要素をよりよく理解していただく上で有益だと当社経営陣は考えています。中核ベースの財務指標の調整は、事業再構築および相乗効果プログラム関連の費用および引当金、企業買収に伴う重要な無形資産の償却および評価損、米国での現在および将来にわたるメルク社との提携打ち切りに関する取決めに関連する償却費やその他特定項目を除外して行われています。これら調整のそれぞれの性質に関する詳細は、当社の年次報告書および書式20－F 2008年インフォメーションに示されています。 第2四半期中に当社グループは、恒常為替レートで伸び率を計算する方法の精度を向上させました。第3四半期および9ヶ月累計に関して開示された恒常為替レート（CER)は、最新の方法を用いて計算しています。*

### 第3四半期

*1株当たり利益を除く財務上の数字はすべて100万ドル単位。加重平均株式数も100万単位。*

| | 2009 報告 | 事業再構築・相乗効果費用 | メルク社および MedImmune社の償却 | 無形資産評価減 | 法務関連引当金 | 中核 2009 | 中核 2008 | 前年同期比（%） | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **売上高** | **8,200** | **-** | **-** | **-** | **-** | **8,200** | **7,775** | **5** | **10** |
| 売上原価 | (1,263) | 24 | - | - | - | (1,239) | (1,457) | | |
| **売上総利益** | **6,937** | **24** | **-** | **-** | **-** | **6,961** | **6,318** | **10** | **14** |
| *売上高の%* | *84.6%* | | | | | *84.9%* | *81.3%* | *+3.6* | *+2.7* |
| 物流費 | (73) | - | - | - | - | (73) | (79) | (7) | 4 |
| *売上高の%* | *0.9%* | | | | | *0.9%* | *1.0%* | *+0.1* | *+0.1* |
| 研究開発 | (1,056) | 6 | - | 1 | - | (1,049) | (1,261) | (17) | (9) |
| *売上高の%* | *12.9%* | | | | | *12.8%* | *16.2%* | *+3.4* | *+2.8* |
| 販売一般管理費 | (2,663) | 82 | 100 | - | 108 | (2,373) | (2,369) | - | 7 |
| *売上高の%* | *32.5%* | | | | | *28.9%* | *30.5%* | *+1.6* | *+0.9* |
| その他の収入 | 59 | - | 24 | 60 | - | 143 | 162 | (11) | (13) |
| *売上高の%* | *0.7%* | | | | | *1.7%* | *2.1%* | *-0.4* | *-0.4* |
| **営業利益** | **3,204** | **112** | **124** | **61** | **108** | **3,609** | **2,771** | **30** | **29** |
| *売上高の%* | *39.0%* | | | | | *44.0%* | *35.7%* | *+8.3* | *+6.1* |
| 正味金融支出 | (172) | - | - | - | - | (172) | (79) | | |
| **税引き前利益** | **3,032** | **112** | **124** | **61** | **108** | **3,437** | **2,692** | **28** | **27** |
| 支払い税額 | (911) | (33) | (30) | (19) | - | (993) | (770) | | |
| **税抜き後利益** | **2,121** | **79** | **94** | **42** | **108** | **2,444** | **1,922** | **27** | **27** |
| 少数株主持分 | (6) | - | - | - | - | (6) | (8) | | |
| **純利益** | **2,115** | **79** | **94** | **42** | **108** | **2,438** | **1,914** | **27** | **27** |
| 加重平均 | 1,449 | 1,449 | 1,449 | 1,449 | 1,449 | 1,449 | 1,452 | | |
| **1株当たり利益** | **1.46** | **0.05** | **0.07** | **0.03** | **0.07** | **1.68** | **1.32** | **28** | **27** |

**第3四半期の売上高は10%増加して82億ドルでした。**

**第3四半期の中核売上総利益率は84.9%で、前年同期を2.7ポイント上回りました。メルク社への支払い額の減少（0.7ポイント）、第三者供給契約関連の問題解決による引当金の繰戻し（1.8ポイント）および継続的な業務効率化によるコスト削減と混合要因（0.9ポイント）が、支払いライセンス料の増加（0.7ポイント）によって一部相殺されています。**

**第3四半期の中核研究開発費は10億4,900万ドルで、前年同期比9%減でした。これは、バイオ医薬品事業への投資の拡大による費用増が、継続的な生産性向上プロジェクト、無形資産減損関連費用の減少およびいくつかの開発後期のプロジェクトが第III相プログラムを完了して申請前の段階に進んだことに起因するプロジェクト費用の削減を下回ったためです。**

**第3四半期の中核販売費および一般管理費は、前年同期比7%増の23億7,300万ドルでした。これは、新興市場への継続的な投資、インフルエンザワクチンのフランチャイズへのマーケティング支出や現在および計画されている小分子製品の販売開始支援の増加および法務費用の増額が、業務の効率化によって一部相殺されたために過ぎません**

**中核ベースの第3四半期のその他の収入は1億4,300万ドルで、前年同期比1,900万ドル減でした。これは主に一時的所得の減少が予想されることによるものです。**

**中核ベース営業利益は36億900万ドル、CERベースでは29%増、実質ベースでは30%増でした。前年と比較して、ドルはユーロに対して5%強くなり（売上高と費用が減少）、スウェーデン・クローナに対しても14%強くなり（費用が減少）、英ポンドに対しても13%強くなりました（費用が減少）。中核営業利益率は6.1ポイント上昇して売上高の44.0%となりましたが、これは費用の効率化と研究開発費用の削減が売上高の伸びに寄与した結果です。**

**第3四半期の中核1株当たり利益は27%増の1.68ドルとなりましたが、これは中核営業利益の増加が正味支払利息の増加によって一部相殺されたためです。**

**報告ベースの営業利益は25%増の32億400万ドルでした。報告ベースの１株当たり利益は22%増の1.46ドルでした。**

**9ヶ月累計**

***1株当たり利益を除く財務上の数字はすべて100万ドル単位。加重平均株式数も100万単位。***

| | 2009 報告 | 事業再構築・相乗効果費用 | メルク社および MedImmune社の償却 | 無形資産評価減 | 法務関連引当金 | 中核 2009 | 中核 2008 | 前年同期比（%） | CER % |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **売上高** | **23,859** | **-** | **-** | **-** | **-** | **23,859** | **23,408** | **2** | **8** |
| 売上原価 | (4,110) | 139 | - | - | - | (3,971) | (4,358) | | |
| | | | | | | **19,888** | **19,050** | | |
| **売上総利益** | **19,749** | **139** | **-** | **-** | **-** | | | **4** | **10** |
| *売上高の%* | *82.8%* | | | | | *83.4%* | *81.4%* | *+2.0* | *+1.5* |
| 物流費 | (207) | - | - | - | - | (207) | (220) | (6) | 10 |
| *売上高の%* | *0.9%* | | | | | *0.9%* | *0.9%* | - | - |
| 研究開発 | (3,095) | 30 | - | 1 | - | (3,064) | (3,708) | (17) | (4) |
| *売上高の%* | *13.0%* | | | | | *12.9%* | *15.8%* | *+2.9* | *+1.9* |
| 販売一般管理費 | (7,867) | 205 | 299 | - | 538 | (6,825) | (7,370) | (7) | 1 |
| *売上高の%* | *33.0%* | | | | | *28.6%* | *31.5%* | *+2.9* | *+2.2* |
| その他の収入 | 638 | - | 87 | 60 | - | 785 | 521 | 51 | 56 |
| *売上高の%* | *2.7%* | | | | | *3.3%* | *2.2%* | *+1.1* | *+1.0* |
| **営業利益** | **9,218** | **374** | **386** | **61** | **538** | **10,577** | **8,273** | **28** | **29** |
| *売上高の%* | *38.6%* | | | | | *44.3%* | *35.4%* | *+8.9* | *+6.6* |
| 正味金融支出 | (575) | - | - | - | - | (575) | (387) | | |
| **税引き前利益** | **8,643** | **374** | **386** | **61** | **538** | **10,002** | **7,886** | **27** | **27** |
| 支払い税額 | (2,661) | (115) | (97) | (19) | - | (2,892) | (2,271) | | |
| **税抜き後利益** | **5,982** | **259** | **289** | **42** | **538** | **7,110** | **5,615** | **27** | **27** |
| 少数株主持分 | (14) | - | - | - | - | (14) | (18) | | |
| **純利益** | **5,968** | **259** | **289** | **42** | **538** | **7,096** | **5,597** | **27** | **27** |
| 加重平均 | 1,448 | 1,448 | 1,448 | 1,448 | 1,448 | 1,448 | 1,455 | | |
| 1株当たり利益 | **4.12** | **0.18** | **0.20** | **0.03** | **0.37** | **4.90** | **3.85** | **27** | **28** |

**9ヶ月累計の売上高は8%増の238億5,900万ドルでした。**

**9ヶ月累計の中核売上総利益率は83.4%と、前年同期を1.5ポイント上回りました。メルク社への支払い**

額の減少（0.6 ポイント）、第 3 四半期の引当金の解除（0.6 ポイント）、継続的な業務効率化による利益と混合要因（1.2 ポイント）は、支払いライセンス料の増加（0.9 ポイント）によって一部相殺されました。

9 ヶ月累計の中核研究開発費は 30 億 6,400 万ドルと前年同期を 4%下回りましたが、これはバイオ医薬品事業への投資の拡大が、継続的な生産性向上プロジェクトおよび登録前の段階に進んだ開発後期のプロジェクトに関連するコスト削減によって相殺される以上の効果があったためです。

9 ヶ月累計の中核販売費および一般管理費は、前年同期比 1%増の 68 億 2,500 万ドルでした。これは新興市場への継続的な投資およびインフルエンザワクチンのフランチャイズや現在および計画されている小分子製品の販売開始のためのマーケティング投資の増額の大部分が、ビジネス全体およぶ業務効率化によって相殺されたためです。

中核ベースの 9 ヶ月累計のその他の収入は 7 億 8,500 万ドルで、2008 年の 9 ヶ月累計より 2 億 6,400 万ドル増加しましたが、これは主に今年度の上半期に Abraxane ®と北欧の一般用医薬品（OTC）製品ポートフォリオ売却によるものです。

中核営業利益は 29%増の 105 億 7,700 万ドルでした。中核営業利益率は 6.6 ポイント上昇して売上高の 44.3%となりましたが、これは売上高の増加、費用ベース全般の効率化、研究開発費の低下、およびその他収入項目の売却益によるものです。

9 ヶ月累計の中核 1 株当たり利益は 28%増の 4.90 ドルでした。これは中核営業利益の増加が正味支払利息の増加によって一部相殺されたためです。

報告ベースの営業利益は27%増の92億1,800万ドルでした。報告ベースの1株当たり利益は23%増の4.12ドルでした。

## 受取利息と支払利息

9 ヶ月累計の正味支払利息は、2008 年の 9 ヶ月累計の 3 億 8,700 万ドル（第 3 四半期は 7,900 万ドル）に対して、5 億 7,500 万ドル（第 3 四半期は 1 億 7,200 万ドル）でした。これは主に以下に述べる公正価値利得の戻し入れの継続、金利低下に伴う受取利息の減少、債務残高の減少に伴う支払利息の減少により一部相殺された年金債務に係る正味支払利息の増加が原因です。

正味支払利息には、第3四半期の正味公正価値損失の3,000万ドル（2008年第3四半期は4,900万ドルの利得）と9ヶ月累計の1億3,000万ドルの損失（2008年の9ヶ月累計は5,700万ドルの利得）が含まれていますが、これは信用スプレッドが年末来縮小したことによります。2008年通年業績で概説した通り、主に2つの長期債に関連して1億3,000万ドルの正味公正価値利得が2008年に計上されました。これらの債券は変動金利とスワップされ、IFRSに基づく公正価値オプションを用いて会計処理されます。この会計処理に基づいて、債券と関連金利スワップを公正価値で計算し、公正価値の変動を損益計算書で報告します。それぞれの証券の公正価値には市場金利の変動が反映されており、たいていは相殺されますが、これら債券の公正価値にも信用スプレッドの変動が反映されます。2008年の利得は、すべて2009年に繰り戻されており、信用スプレッドの減少が続けば追加損失が計上される可能性があります。

## 税金

実効税率は、第3四半期は30.0%（2008年は28.9%）で、9ヶ月累計は30.8%（2008年は29.0%）でした。法務関連引当金（第3四半期に1億800万ドル、9ヶ月累計で5億3,800万ドル）の影響を除くと、実効税率は第3四半期は29.0%、9ヶ月累計でも29.0%となります。通年ベースでは、5億3,800万ドルの法務関連引当金の影響を除くと、現時点の予想実効税率は約29.0%です。

## キャッシュフロー

営業活動から生じるキャッシュフローは2009年9月30日までの9ヶ月累計で76億5,700万ドルとなりましたが、前年の該当期間では59億5,100万ドルでした。17億600万ドルの増加は主に営業活動から生じるキャッシュが19億300万ドル増えたためで、これは基礎となっている好業績と運転資本の運用の改善によるものですが、2億2,100万ドルの支払い税金の増加によって一部相殺されました。

投資活動による正味キャッシュフローの流出は9ヶ月累計で5億7,200万ドルとなりましたが、2008年の該当期間では34億2,400万ドルでした。28億5,200万ドルの変動は、主に部分償却としてメルク社に2008年に26億3,000万ドルを支払ったことと、2009年に受領したAbraxane ® の共同販売権の売却益2億6,900万ドルを計上したことによるものです。

株主への配当金は、2008年の2回目の中間配当と2009年の1回目の中間配当の支払いにより29億7,700万ドルとなりました。

## 資本と負債の構造

第3四半期中、6億5,000万ドルの2年物変動利付債（2007年9月発行）が満期日に償還されました。2009年9月30日現在、未払い負債残高（ローン、短期借入金および当座貸越を含む）は112億7,000万ドル（2008年12月31日現在：118億4,800万ドル）でした。この負債の中、9億8,000万ドルが1年以内に返済期限が到来し（2008年12月31日現在：9億9,300万ドル）、当社はこれを現在の77億9,400万ドルのキャッシュ残高から返済する予定であり、資金の借り換えは必要ありません。事業キャッシュフローが潤沢であるため、2008年12月31日以来正味負債が39億8,100万ドル減少して、31億9,300万ドルとなりました。

## 配当と自社株買い

2008年に発表した通り、当社グループの自社株買いプログラムは中止されました。その結果、9ヶ月累積で自社株買いはありません。9ヶ月累積では合計8,500万ドルの株式オプションの行使を見込んで220万株が発行されました。

2009年9月30日現在の発行済み株式総数は14億5,000万株です。

## カレンダー

| | |
|---|---|
| 2010年1月28日 | 2009年第4四半期・通年業績発表 |
| 2010年4月29日 | 2010年第1四半期業績発表 |
| 2010年4月29日 | 年次総会 |
| 2010年6月29日 | 2010年第2四半期・上半期業績発表 |
| 2010年10月28日 | 2010年第3四半期・9ヶ月累計業績発表 |

最高経営責任者
David Brennan